

(58)石灰添加予備造粒法による実機操業試験

(石灰添加予備造粒法の開発 第3報)

住友金属工業(株)鹿島製鉄所

植木弘満○高田耕三 高良正昭

中央技術研究所

佐藤 駿 川口尊三 本社 横井 穎

1. 緒言

焼結配合原料を高CaO成分擬似粒子と低CaO成分擬似粒子に各々造粒形成の後、混合焼成する「石灰添加予備造粒法」は、品質制御上有効なプロセスであることを前報で報告した。今回、約90日間の実機操業試験を行ない、所期の効果を確認したので報告する。

2. 試験方法

鹿島第2焼結機での試験設備をFig.1に、原料配合条件をTable 1に示す。高CaO成分原料に石灰石、豪州鉱及びスケールを(A系)、低CaO成分原料にその他鉱石類及び粉コーカス(B系)を配合し、それぞれ混合造粒した後、混合焼成し、通常造粒法と比較した。なお、層厚一定のもとで、生産率一定を前提とした。

3. 結果

結果をTable 2に示す。

- 焼結鉱品質では、TI, RIに大差はなく、RDIの改善が確認された。
- 高CaO成分原料の造粒において、基礎試験結果に基づき、適正擬似粒度を得る造粒水分としたことで、擬似粒子 \ominus 2%抑制によりRDIは改善し、2~5%増加によりTI, RIの低下防止を図れたと考える。
- サージホッパー以降のA, B系の混合は良好で、層高方向の著しい偏析及び擬似粒子の著しい崩壊を認めなかった。

4. 結言

鹿島第2焼結機において、石灰添加予備造粒法の長期実機操業試験を行ない、基礎試験と同程度の品質改善効果が確認された。今後、予備造粒法は種々のバリエーションも考えられ、適用の拡大を進めたい。

参考文献 1) 川口ら:鉄と鋼 85, S803

2) 植木ら:同 S804

3) 栗山ら:今講演大会発表予定

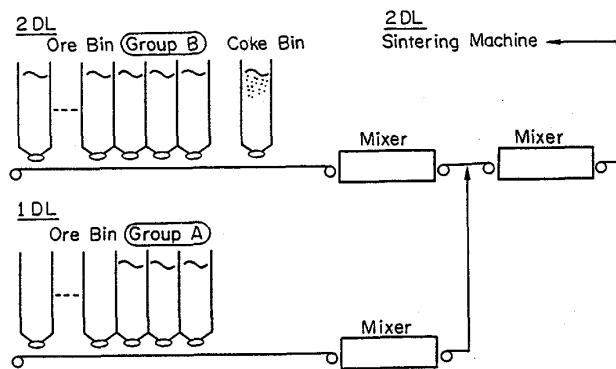


Fig.1 KASHIMA 2DL Pre-granulation Method Flow

Table I Materials Condition

Group	Materials (%)	Base	Pre-granulation
A	Limestone	—	8.7
	Aust. Ore		8.9
	Scale		2.3
B	Limestone	8.6	0
	Aust. Ore	35.4	27.0
	Scale	2.3	0
	Others	50.8	50.2
	Coke Breeze	2.9	2.9
Total		100	

Table 2 Operation Data (KASHIMA No.2 DL)

		Base (5 days)	Pre-granulation (5 days)
Pre-granulation ratio	%	0	19.9
Pseudo-Particle Size (dry)	Φ2mm	%	—
	2~5mm	%	
Coke Breeze			2.9
	kg/t		42.8
Suction Pressure	mmHg	1087	1042
RDI	%	34.4	28.7
TI	%	71.8	71.5
JIS-RI	%	63.9	63.2
FeO	%	6.8	7.3
Productivity	$\text{t}/\text{m}^2 \text{D}$	24.6	25.0
Return Fines (6mm)	%	24.4	23.8